

# ふくろう通信

独立行政法人  
労働者健康安全機構

福島労災病院

◇病院理念

- ・受ける人が主役の医療の実践
- ・最善の医療・看護の提供
- ・働く人の健康管理とリハビリテーションの実施

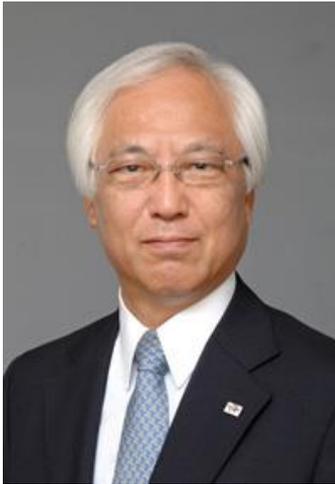
◇基本方針

- ・病み痛むかたの目線で公平な医療を行います
- ・常に研鑽して高質な医療を安全かつ確実に提供し信頼される病院づくりに努めます
- ・永年にわたる勤労者医療の実績を活かし働く方の健康維持と早期社会復帰に取り組みます



- ◎ 地域医療支援病院
- ◎ 地域がん診療連携拠点病院
- ◎ 病院機能評価認定病院
- ◎ 臨床研修指定病院

第30号 平成31年2月発行



## 巻 頭 言

福島労災病院長 渡辺 毅

### 当院の歩みと地域の医療ニーズに応えるための現在の課題

独立行政法人 労働者健康安全機構 福島労災病院は、1955年に常磐炭鉱における労働災害の発生に対処することを目的として病床数50で開設されました。その後、常磐炭鉱の廃坑にともない病院の性格も徐々に変化し、病床数406のいわき市民の皆様のための総合病院に発展しました。しかし、近年は産婦人科医の減少に伴う産婦人科のいわき市医療センター（旧いわき市立総合磐城共立病院）への集約化や東北大学の派遣医師の引き上げによる整形外科の縮小等でこれらの診療領域は縮小しました。一方で、従来からの強みである消化器内科、外科、循環器内科については診療能力が強化され、加えて、2014年から泌尿器科、2015年からは腎臓内科、糖尿病内科、透析室、2016年からはリウマチ膠原病内科を再開し、総合内科（総合診療科）も新設しました。その結果、社会の高齢化によって増加したがんと生活習慣病とそれを原因とする心血管疾患の診療が現在の当院の診療の中心となっています。

当院は、2003年8月にいわき市で初めて「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、専門的ながん診療の実施、がん診療に携わる医療スタッフへの研修や市民啓発等を実施しています。また、がん患者さんの苦痛を取り除くための「緩和ケア病棟」もいわき市で最初に設置しました。さらに、地域医療の中核病院として、市内の医療機関との連携機能を整備してきました結果、2004年2月にはいわき市で初めて「地域医療支援病院」の認定を受けました。多くの連携医の先生方（2019年1月現在236名）から患者さんのご紹介を頂いて、連携した専門的医療を提供しており、地域の医療機関や在宅診療との連携のため、2016年10月に地域包括ケア病棟を開設しました。救急医療に関しては、時間外

### ～ 目 次 ～

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| ■ 巻頭言 院長 渡辺 毅 …P1～3 | ■ マンモグラフィ装置の更新について…P3 |
| ■ レスパイト入院について …P4～5 | ■ 学会活動報告 …P6          |
| ■ 専門看護師・認定看護師紹介 …P7 | ■ 市民公開講座のお知らせ …P8     |

の受診は、年間約 3,200 名、救急車で搬送は 1,500 名以上と市内で 2 番目の受入れ病院として、いわき市の救急医療を支えています。

以上のように、当院はいわき市民の皆様のための急性期病院となるために懸命に努力してまいりました。一方、いわき市の医療指標は全国平均からは低い状況が続いており、その原因はいわき市の病院勤務医の不足（人口当たり病院常勤勤務医は全国平均の三分の一）と急性期病床の地域偏在（内郷地区に急性期病床の 47%が存在）にあると考えています。市内で第二の規模を持つ当院としていわき市民の皆様の医療にさらに貢献するためには、不足している診療科の常勤医師の確保と病院の診療機能の充実が必要と考えています。

当院の常勤医師数に関しては、2018 年度は過去最低の 29 名まで減少しました。しかし、常勤医師の確保については、2019 年 2 月 1 日現在、懸案であった整形外科に来年度は 3 名の増員が内定し、消化器科では 4 名の増員、その他の診療科で確定していないものも含めると、来年度は計 10 名近い増員が見込まれ、来年以降もさらなる増員の可能性が膨らんでいます。

一方、高度な病院機能を果たすための設備の充実に関しては、現在の病院建物の最も新しい建物でも約 30 年、最も古い建物は 60 年を超えて老朽化しているうえ、東日本大震災の被害も残っている病院の新築と診療設備の更新・新設が大きな課題です。

### 病院の移転・新築によって地域貢献の向上を目指す

いわき市医療センターが現地（内郷）での新病院建築を開始して以降、当院では、移転のうえでの新築を検討してきました。その結果、移転先候補地について、当院といわき市、いわき明星大学とが協議を進め、いわき明星大学の隣接地であるいわき市中央台に移転することで、2017 年 5 月 30 日に基本合意しました。この移転先は、現在地から約 8 km 離れたいわき市のなかでも住宅団地が多い人口中心にあたり、これによって、内郷地区に集中気味の急性期医療病床の偏在解消にも役立つと考えています。

移転新築する病院では、がん診療に関しては、当院の強みである胃がん、大腸がん等の消化器がんだけでなく、肺、婦人科、泌尿器等のがんにも分野を広げ、治療法も、外科手術、放射線治療、腫瘍内科治療と緩和医療（緩和ケア病棟の充実）を組み合わせた総合的治療を目指します。生活習慣病診療に関しては、いわき市が進めている特定健診受診者を対象とした糖尿病重症化予防プログラムへの取組みをさらに強化し、院内でも人間ドック等の健診システムの拡張、糖尿病、高血圧、脂質異常症等の生活習慣病の合併症予防のための医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士等の多職種が連携した重症化予防システムの充実や糖尿病教室等患者さんへの情報提供に努めてまいります。さらに、総合診療・救急医療・災害医療の機能強化、すなわち、総合診療科（総合内科）・救急科と超急性期専用の病室（ICU）、脳神経外科、透析センター及び循環器センターの新設や充実によって、急性心筋梗塞（いわき市の人口当たり死亡率は全国平均の 2 倍以上）、脳卒中（いわき市の人口当たり死亡率は全国平均の 1.5 倍）や腎不全の診療等、現在のいわき市民の皆様の医療需要が強いにもかかわらず十分に対応できていない領域の診療機能を充実させたいと考えています。病院設備に関しては、最新のものを充実させるとともに、東日本大震災の教訓から、一定期間自立可能なインフラ整備を行う予定です。

また、いわき明星大学看護学部・薬学部・医療技術系学部やいわき市医師会および准看

護学校、いわき光洋高校等の教育機関、豊富な商業施設、住宅団地が一体となった魅力的で住みやすい地域づくりに貢献したいと考えています。

## 市民の皆様にもさらに関われた病院を目指す

当院の理念は、ただ病気のみを診るのではなく、「受ける人が主役の医療の実践」です。

当院は、設立時からの伝統である職業・災害医療のみならず、高齢化社会を反映したさまざまな疾患の診療を通して永年いわき市民の皆様にご貢献してきた心算です。しかし、現在日本の医療は保険財政の危機や医師の地域偏在等の大きな問題を抱えており、また、いわき市の医療は地域特有の問題もあります。

当院の診療機能の現状は、本来の目標からは不足していることも事実です。そこで、当院がいわき市の将来の医療・市民生活にさらにご貢献するためには、新築・移転が最も有効な手段だと考え、その方向で計画を進めています。一方、このような計画はいわき市民の皆様のご理解とご支持がなければ成功するものではありません。当院は、これからも市民の皆様のご意見、ご叱責に対して謙虚に耳を傾ける開かれた病院となる努力を致しますので、今後とも一層のご指導とご支援を頂ければ幸いです。

## マンモグラフィ装置を更新いたしました

当院では、乳がん領域における一層の診療機能充実を図ることを目的として、マンモグラフィ装置を更新いたしました。

今回導入したマンモグラフィ装置は、撮影画像の高精細化による一層の診断精度向上が期待できる他、検査を受ける方のX線被ばく対策として撮影時のX線が低線量化されています。さらに、撮影画像を瞬時に確認できる通信機能を活用した検査時間の短縮化等の特徴を有しております。

乳がんの検診等の検査対応をはじめとして、当院は、引き続き、地域がん診療連携拠点病院として、標準的ながん診療を提供するための診療体制を整備し、患者様に適切な診療を提供できるよう努めてまいります。



導入機器：FUJIFILM社製 AMULET Innovality

# 「レスパイト入院」のご案内

## 「レスパイト入院」とは？・・・

患者さんの看護・介護をされているご家族等が、冠婚葬祭、旅行、体調不良等により、一時的に看護・介護が困難となった場合に、患者さんに短期間の入院をしていただくことを「レスパイト入院」といいます。看護・介護をされている方々の日頃の心身の負担軽減を図ることも目的です。

当院では、在宅医療等をご担当されている先生方からのご紹介に基づき、当院の地域包括ケア病棟において、レスパイト入院に対応しております。対象となる方の範囲、手続き方法につきまして次のとおりご案内いたします。

## ご利用のイメージ（参考）



・家族旅行、冠婚葬祭等により一時的に介護ができないとき



・介護をお休みし、リフレッシュしたいとき



・介護している方が体調不良のとき



・仕事が多忙、出張が続く等で介護ができないとき

### ●レスパイト入院の対象となる方（次の両方に該当する方）●

- 患者さん本人及びそのご家族様からのご希望により、在宅医又はかかりつけ医からお申込みのある方
- 医療処置（点滴、胃瘻、腸瘻等の経管栄養、在宅酸素、人工呼吸器管理、気管切開管理、吸引処置、褥瘡処置、歩行や排泄介助等）が必要な方（徘徊やせん妄等を伴う認知症の方や精神疾患のため不安定な方はお受けできないことがあります。）

## ●レスパイト入院のご利用について（申込方法）

レスパイト入院は予約入院となります。申込方法をご説明いたします。

- (1) 患者さん本人及びそのご家族様は、在宅医又はかかりつけ医に、福島労災病院での「レスパイト入院」をご希望される旨をお申し出ください（訪問看護ステーション、ケアプラン事業所からの予約申込みは在宅医又はかかりつけ医とご相談ください）。
- (2) 入院予約は、ご担当の在宅医又はかかりつけ医から、入院ご希望の1週間前までに、当院あてお申込みいただくこととなっております（患者さん本人及びそのご家族から直接お申込みいただくことはできません）。
- (3) 入院日は、当院で検討の上、お申込みいただいた医療機関にご回答いたします。ご入院いただく地域包括ケア病棟のベッド調整のため、必ずしもご希望に添えない場合があることを予めご了承ください。
- (4) 入院にあたり必要な書類（入院決定後に、ご家族様等ご指定の方あてご郵送いたします。）、入院生活に必要な生活用品をご準備いただき、指定日にご入院ください。
- (5) お急ぎでレスパイト入院をご希望される場合には、在宅医又はかかりつけ医から当院あてご連絡ください（当院の業務時間外及び土曜・日曜・祝日のご依頼は翌平日以降の対応となります）。



## ●レスパイト入院の留意事項について

- (1) 1入院あたりの入院期間は、14日以内となります。
- (2) 入院の際にはお薬、お薬手帳、PEG、ストーマ等の医療器材をご持参ください。
- (3) 入院時に状態確認のため胸部レントゲン、心電図、採血等の検査をいたします。
- (4) 症状が悪化・急変し、検査・治療が必要になった場合には、部屋の移動、急性期病棟に転棟、専門医のいる病院に転院する場合がありますので予めご了承ください。
- (5) レスパイト入院が終了した際の退院先は、ご自宅もしくは居宅系施設となります。
- (6) 他の入院患者様に御迷惑となるような行為があった場合や、主治医の指示に従わなかった場合等には入院継続が困難になる場合があります。

## ●入院費用について

- (1) 入院費用は健康保険に基づいて診療報酬の基準により算出いたします。
- (2) 特別室・個室・2人部屋は別途室料差額をご負担ください。

【参考】個室の種類と一日当室料差額（税込）

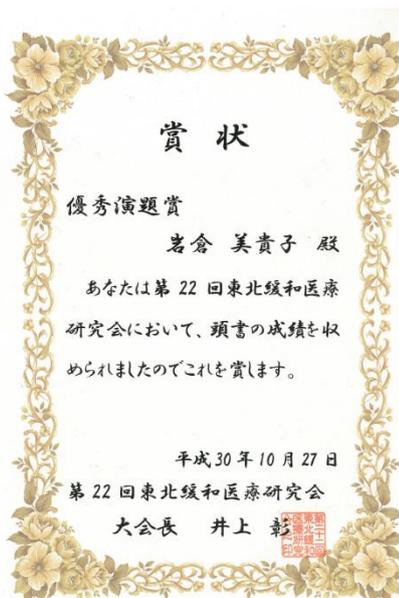
- ・特別室（1人部屋） 12,600円
- ・個室（1人部屋） 7,350円
- ・2人部屋 2,625円

※個室の詳細は当院ホームページを併せてご確認ください

レスパイト入院についてのご不明な点、お問い合わせは、福島労災病院地域医療連携室  
TEL0246-26-1111（内線2513）あてご連絡ください。

## 学会活動のご紹介

当院では、安全で質の高い医療提供に努めておりますが、各種学会における学術研究活動を通じて、医学的知識・最新の医療技術に関する情報の把握等、職員の自己研鑽を推奨しております。当院の学術活動が学会において受賞しましたのでご紹介いたします。



「病棟の看護研究が優秀演題に選ばれて」

2病棟 岩倉美貴子

2018年10月27日仙台国際センターで行われた第22回東北緩和医療研究会で、2病棟の看護研究が優秀演題に選ばれました。

研究テーマは「緩和ケア病棟の看取りに向けた家族介入の実態調査～Palliative Prognostic Index (PPI) 導入後の評価～」です。PPIとは「聖隷三方原病院の森田らが開発した3週間～6週間の生存期間を予測するツール」のことで、全身状態と特定の項目を数字で評価し合計点数から余命を予測するものです。

看護師がこのツールを活用して適切な時期にご家族に対して看取りの説明を行うことで、ご家族は病状の目安や気持ちの準備ができます。緩和ケア病棟の看護師だけではなく多職種が協働してツールを有効活用することで、当院に入院する患者・ご家族に対して良い緩和ケアを提供できると考えます。

この研究は4年前に開始し2年前にも同研究会で発表し、今回継続して研究発表に繋がったことが高く評価されました。今後も看護の質向上のために研究に取り組んでいきたいと思っております。

## ポスター-AWARD (メディカルスタッフ部門) 優秀ポスター賞を受賞

昨年11月に開催された第31回日本外科感染症学会総会学術集会において、当院の感染対策チームが発表いたしました演題「術後感染予防抗菌薬変更によるSSIの評価」が優秀ポスター賞を受賞しました。

当院は、感染予防対策に取り組んでまいりたいと考えております。



## 感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師について

感染症看護専門看護師/感染管理認定看護師 西畑利恵子  
感染管理認定看護師 皆川 陽子

本格的な冬がやってきます。空気が乾燥し、気温が低くなる冬季は感染症がピークを迎える季節でもあります。冬に問題となる感染症は、インフルエンザ、肺炎等の呼吸器感染症、ノロウイルス等の感染性胃腸炎があります。また、現在は風しんが全国的に拡大しています。

病院等の医療機関は病気を治療する施設ですが、その反面様々な微生物に感染した患者様が集まってくる場所でもあります。また、治療のために使用する抗菌薬も多く、薬剤耐性の微生物が発生しやすい環境となり、院内感染が問題となっています。そのため、医療機関では、このような感染症に対し、対策を立てていく必要があります。

病院等の医療機関における感染症の対策は2つあります。

1つ目は、「感染症治療」と言って、みなさまが感染症に罹って、医療機関を受診し検査・診断・治療、ときには感染症に罹らないようにワクチン接種による予防を行うことです。



2つ目は、「感染防止策」と言って、手洗い・手指消毒、咳等の呼吸症状出現時のマスク着用で代表される感染症を広めないために行うものです。はっきりと区別できませんが、「治療」に対応するのが感染症看護専門看護師で、「防止策」に対応するのが感染管理認定看護師の役割となっています。



**Stop 感染症**

感染症は、各診療科を超えて病院全体に伝播する可能性があるため、病院内のすべての部門が一致団結し対策を行わなければなりません。また、一つの病院の問題にとどまらず、地域の医療機関全体が連携して感染症対策を行なっていくことも重要です。そのため、感染管理認定看護師・感染症看護専門看護師は、医師・薬剤師・検査技師等の職種と感染症対策の連携チームを組み、ときには地域の医療機関と協力し

あいながら、安心・安全な医療環境を提供できるよう活動しています。

## 福島労災病院 市民公開講座のご案内

当院は、厚生労働省の指定する「地域がん診療連携拠点病院」として、「がん診療」に関する情報提供等を行っているところですが、広く地域の皆様を対象に、



「がんの罹患体験やがん患者を支援する家族の視線」について、この分野に精通されている講師の先生方をお招きして公開講座を開催いたします。

この機会に、是非、当院の市民公開講座にご参加下さい。

### 記

日 時：平成31年3月16日（土） 14：00 開始（13：30 開場）

場 所：福島労災病院 本館棟2階 内科外来ホール

講 師：福島労災病院 副院長 武藤 淳先生

特定非営利活動法人 がんピアネットふくしま

理事長 鈴木 牧子先生

特定非営利活動法人 がんとうきあう会

理事長 西村 詠子先生

備 考：参加費無料、事前のお申込みは不要です。

（会場に直接お越しください）。

独立行政法人労働者健康安全機構 **福島労災病院**

〒973-8403 福島県いわき市内郷綴町沼尻3

TEL 0246-26-1111 FAX0246-26-1322 URL <https://www.fukushimah.johas.go.jp>

発行人 渡辺 毅

ふくろう通信 第30号